

# かわせみ通信

発行：神奈川県自然環境保全センター  
自然保護課

住所：神奈川県厚木市七沢657

TEL：046-248-6682

## 野外施設自然情報

ホームページ、ツイッターもご覧ください！

<http://www.pref.kanagawa.jp/docs/f4y/O1about/top.html>

[https://twitter.com/hozenc\\_kanagawa](https://twitter.com/hozenc_kanagawa)

自然環境保全センターの野外施設には、身近な自然を観察できる自然観察園（昭和57年オープン）と、樹木一つ一つをじっくり観察できる樹木観察園（旧林業試験場時代の約50年前に整備）があります。

野外施設では、それぞれの季節に、生き物同士の巧みなつながりや、興味深い生命活動など、大自然の不思議な現象にふれることができます。

この「かわせみ通信」では、野外施設の出来事や生き物たちの様子を紹介しています。

### <樹液に集まる昆虫たち>

長い梅雨が明けて猛暑が続いた8月、樹液がしみ出すクヌギの木は連日多くの昆虫でにぎわいました。

一番の常連客は金色に輝くカナブンで、ときおり鮮やかな緑色のアオカナブンやまっくろなクロカナブンが混じていました。こどもたちに人気のカブトムシやノコギリクワガタ、さらには冬に幼虫を見つけたオオムラサキの成虫も間近に見ることができました。また、スズメバチの仲間も多く、刺激しないように注意しながらの観察でしたが、昆虫たちは樹液に夢中で、ちょっと近づいてみてもこちらには見向きもせずでした。様々な昆虫をじっくり観察することができる「樹液酒場」。来年も楽しみです。



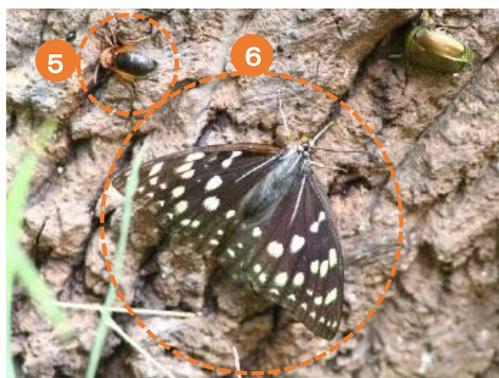
割れ目につまった  
カナブン



頭を割れ目に  
突っ込むクロカナブン



メスに覆いかぶさり  
他のオスにとられない  
ようにガードする  
ノコギリクワガタ



- ①サトキマダラヒカゲ
- ②カナブン
- ③アオカナブン
- ④カブトムシ(オス)
- ⑤チャイロスズメバチ
- ⑥オオムラサキ(メス)

その他、確認された昆虫

サビハネカクシ、ヨツボシケシキスイ、コガタスズメバチ、オオスズメバチ、  
モンズメバチ、アカボシゴマダラ

## <小さな池の住人は…？アカハライモリ確認！>

園内にひっそりとある小さな池。高い木々に囲まれ、光があまり差し込まないうえ、落ち葉も堆積していて、生き物の気配は感じられません。これまでどんな生き物がいるか、確認したことがなかったので、池の掃除も兼ねて3月に生き物調査を行いました。すると、30年前の記録以外では職員が確認できずにいたアカハライモリが姿を現しました。



### 池の掃除&生き物調査の様子



繁茂しすぎたマツモと落ち葉をかき出します



落ち葉の中に生き物がないかチェックします



落ち葉などで埋まっていた池に水が見えるようになりました！

アカハライモリは池や沼、水田、水路など身近な水辺の環境に生息する両生類ですが、県内では絶滅の危機に瀕しているとされる、絶滅危惧Ⅰ類に指定されています。減少の理由には、生息環境の減少や外来生物の影響など様々な要因が考えられますが、近年では商業目的の両生類の乱獲なども問題となっているようです。

生き物たちは自然の中で関わりあっているので、1種でもいなくなれば、そこにいるほかの生き物たちにも影響を与える可能性があります。生き物たちのつながりを学習してもらう自然観察園もちろん採集は禁止です。この池でもアカハライモリたちが命をつないでいけるよう、生息環境を維持するための適度な管理を行いながら見守っていきたいと思います。



アカハライモリ  
なんと言っても赤いお腹が特徴的！

ほかにも  
こんな生き物が  
いました



キベリヒラタガムシ(左)、マメゲンゴロウ(右)  
どちらも暗い湿地を好む



クロスジギンヤンマ  
コウホネなどの抽水植物が生育する、木陰の多い薄暗い水域を好む

### 子イモリも発見！



9月、池の周辺を小さなイモリが歩いていました。まだ腹は赤くありません。水中で過ごす幼生時代が終わり、上陸した子どもで、これから1年ほど陸で過ごします。



ヤブヤンマ  
植物が底に積もった、木陰の池沼などに生息する

## <シカの親子>

親子ならんで  
草地にやっ  
てきました！



ムシヤ  
ムシヤ...



こっちも  
ムシヤ  
ムシヤ...



親子の  
足跡？



成獣の足跡とひとまわり小さな  
足跡がありました！

自然観察園の非公開エリアに設置している自動撮影カメラには、これまでに哺乳類や鳥類などの34種類が撮影され、その暮らしの一端を見せてくれます。水辺の草地や沢沿いに向けたカメラでは、6月、ニホンジカの親子の姿が数多く映りました。

6月の11日間に撮影された計20カットの画像には、今春に生まれた仔シカが親シカと並んで草の葉を食べる様子の他、親シカの後を元気いっぱい飛び跳ねる、親シカの体を鼻先でつつく、好奇心旺盛にあちこちの草のおいさをかぐ、などの行動が撮影されました。また、仔シカが後ろ肢で頭をかかす姿や、昨年生まれと思われる若シカも一緒に、親子3頭がゆっくりと歩く様子など、のびのびと過ごしているような印象を受ける画像もありました。

自然観察園の谷戸には草地や沢、湿地がまとまってあり、食べ物となるやわらかい草や飲み水を得やすいこと、また、斜面林には身を隠すことができる藪が多いことなどから、ニホンジカにとって子育てをしやすい環境であることがうかがえます。

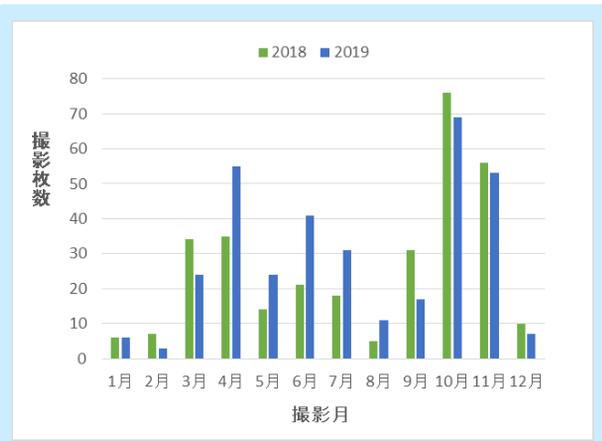


図1 自動撮影カメラによるニホンジカの撮影枚数

自動撮影カメラによるニホンジカの撮影枚数は秋季（10月～11月）が最も多く、次に春季（3月～4月）、初夏（6月～7月）と続きます。1年のうち冬季を除く時期に高頻度で野外施設にやっけてきているようです（図1）。

日中に園路を歩くと、やわらかい土の上にくっきりと残る足跡や、草の葉をむしるようにして食べた痕、毛や糞などの痕跡があり、ニホンジカの存在をリアルに感じることができます。

# 傷病鳥獣救護の情報

※救護の情報やバックナンバーは、ホームページで見られます。

神奈川県 野生動物救護

検索

自然環境保全センター（旧自然保護センター）では、傷病鳥獣の救護業務として、県民の方により持ち込まれた県内の傷ついたり弱ったりした野生動物（鳥類と哺乳類の一部）を收容し、必要に応じて治療やリハビリを行い、野生に戻す業務を昭和53年（1978年）から行っています。この「かわせみ通信」では、持ち込まれた野生動物の「救護原因」や「リハビリ状況」などの情報を掲載しています。

## ●●● 2020年1月～6月の報告 ●●●

### 救護実績

#### 【主な救護原因】

#### 【救護件数上位5種】

種名	件数
ムクドリ	21
タヌキ	20
シジュウカラ	20
スズメ	16
ツバメ	12

鳥類の原因	件数
ネコなどに襲われる	23
ガラス窓などへの衝突	16
粘着剤に絡む	4
交通事故	3
釣り糸（針）や防鳥ネットなどに絡む	3
誤認保護	3

保護原因で多い  
タヌキの疥癬症



哺乳類の原因	件数
疥癬症（かいせんしょう）	14
交通事故	3
ネコなどに襲われる	2
罾（トラバサミ）	1

### 活動内容

3/22 救護動物特別公開、6/7 野生動物救護ボランティア講習会は、新型コロナウイルスをめぐる社会情勢を踏まえ、中止いたしました。

## ●●● 新企画！ ●●●

### 野生動物救護のことはじめ vol. 1

もし、うずくまっている野生動物に出会ったら…どうしたら良いのか困ったことはありませんか？ここでは、実際に出会った時の救護のヒントを紹介します。野鳥がうずくまっていた場合、まずは慌てて触る前に動物の特徴がわかると、保護する時の注意点が予測できるようになってきます。

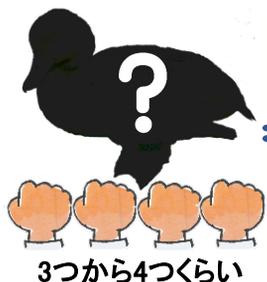
どこに注目すれば見分けられるのか、今回は冬に持ち込まれた野鳥で種類を特定してみましょう！

鳥の大きさと  
シルエットは？

くちばしの形や色は？

目と顔の色の違いは？

胴体や翼の模様は？



野外での大きさものさし = 大人のこぶし1つ分

さて、どんな鳥かわかりましたか？答えは次のページへ

## このような鳥でした。

くちばしの先が黒っぽい

目の上から後頭部まで黄色い線がある

翼はスズメに似ていて胸から腹にかけて黄色く黒い縦線がある

答えは  
アオジ

受付No.190295

種名:アオジ [ホオジロ科]  
 受入:2020年1月30日(19.6g)  
 救護原因:衝突の疑い  
 救護時の状態:右脚把握力なし・右肩骨折疑い  
 転帰:放野 2020年2月7日(20.5g)

さらに ふかぼり!

アオジは、種子や昆虫、クモ類などを食べるのに適したくちばしの形をしています。保護する時は、かみついてくることもあるので、タオルなどで全体を覆ってから捕獲することをおすすめします。季節や雌雄で羽の色が変わります。

オスのくちばしは紅色、メスはピンク

目の周りから後頭部にかけて白い

イチョウの葉のような飾り羽はオスの特徴で冬限定!

答えは  
オシドリ

受付No.190311

種名:オシドリ [カモ科]  
 受入:2020年2月27日(440g)  
 救護原因:衝突の疑い  
 救護時の状態:左膝関節骨折疑い  
 転帰:死亡 2020年3月2日(448.5g)

さらに ふかぼり!

オシドリは7~10mほどの高い樹洞に卵を産み、かえった7~13羽のヒナは、樹洞の高さから地面にダイブして自力で水辺などに向かいます。そして、種子やドングリ、水生昆虫、小魚などを食べます。カモの仲間は、羽ばたく力が強いので、写真の脚(赤矢印)のように伸びてしまい立てない状態でも捕獲する時には注意が必要です。

くちばしの形は靴べらの様で先端が黒色

目は黄色、頭は日が当たると緑がかった黒色

背中中は黒と白の霜降り模様、胸は黒色

答えは  
スズガモ

受付No.190308

種名:スズガモ [カモ科]  
 受入:2020年2月20日(600g)  
 救護原因:不明  
 救護時の状態:左橈尺骨骨折  
 転帰:放野 2020年3月12日(840g)

さらに ふかぼり!

スズガモは水の中に潜ることが得意! 海や海に近い湖沼に生息、水中昆虫やアサリなどの貝類、アマモなどを好んで食べます。写真の左翼(赤矢印)は、骨折により垂れ下がった状態です。出血が見られなくても、左右の翼の形に違いがないか確認することでケガをしていることがわかる場合があります。

今回は、冬に救護した鳥たちを紹介しましたが、年齢や性別で羽色や目の色も変わります。ただ、判別のポイントを知ると図鑑などで確認する時にも役立ちます。また野鳥の観察に慣れてくると、鳥の名前だけでなく、うずくまってもくちばしの形を見て足の形を想像することができるようになります。足の形を知っておくと、捕獲時に足から攻撃するタイプかどうか予測できるようになり、保護する時にケガをするリスクが低くなります。まずは、散歩中やベランダから気軽にバードウォッチングを始めてみませんか。そして、もし弱っている鳥に出会った時は、落ち着いて周辺の状況など安全を確認してから鳥の特徴や状態を把握し、その情報を相談する時に役立てましょう。これからも不定期で紹介する予定です。お楽しみに。

〈鳥の豆知識〉

くちばしの形から足の形を想像してみよう!

アオジ・スズメタイプ

このくちばしの形は、足よりもくちばしで挟む力の方が強いので気をつけましょう

注意ポイント

カモ・アヒルタイプ

# <フクロウ 10年間の救護実績報告>

2019年度はフクロウの受け入れがやや多かったことから、2010年度から2019年度まで10年間の記録をまとめたので紹介します（図1）。

## フクロウってどんな鳥？

フクロウ目フクロウ科の猛禽類の仲間です。昼間でも活動することがありますが、主に夜行性です。1年を通して田畑のあるような平地から大木のある雑木林、低山などに生息しています。フクロウは、農作物を食べてしまうネズミなどの小型哺乳類や鳥類を主に食べることから昔から人と共存して生きてきた鳥です（図2、3）。

## 受け入れ状況は？

年間を通して持ち込まれますが、特に5月が多い傾向にあります（図4）。保護された場所としては、多い順に相模原市9件、厚木市6件、平塚市・小田原市・茅ヶ崎市3件、秦野市・大磯町・箱根町・湯河原町2件、横浜市・藤沢市・座間市・中井町・真鶴町・愛川町1件です。県内に広く分布しており、私たちの近くで生活していることがわかります。

## 救護原因は？

網や防鳥ネットに絡まるケースが一番多く、ネコやカラスなどに襲われて持ち込まれるケースが続きます。ヒナの場合は、巣から落ちたり誤認保護もみられます（図5）。

フクロウの巣立ちヒナは、飛べない状態で巣から出てくるため、親とはぐれたかケガをしているのではないかと心配して持ち込まれることがあります。その優しい気持ちに時に、親から誘拐してしまう「誤認保護」といわれる状態になります。大きなケガをしていない場合は、親鳥が近くにいるので、温かく見守ってください。

## 救護したその後は？

すり傷や骨折した状態で持ち込まれることが多く、治療した後、飛べるようにリハビリをしてから放野します。放野率は60%ですが、骨折の状態によっては飛ぶことができず、残念ながら自然界に戻れない個体（終生飼養）もいます（図6）。

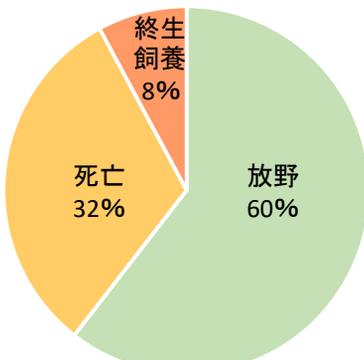


図6 転帰



右の翼を骨折しているため垂れ下がっている状態

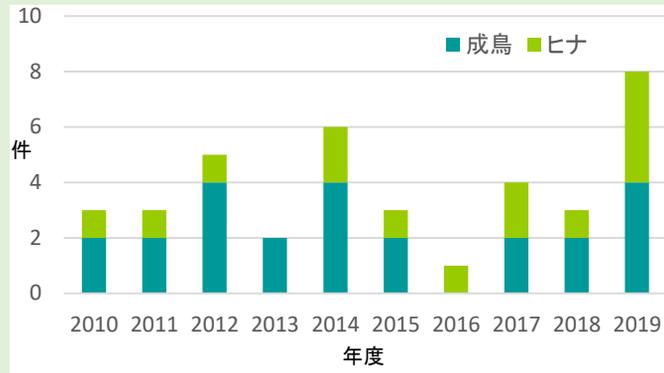


図1 各年度別受け入れ件数



図2 成鳥



図3 巣立ちヒナ

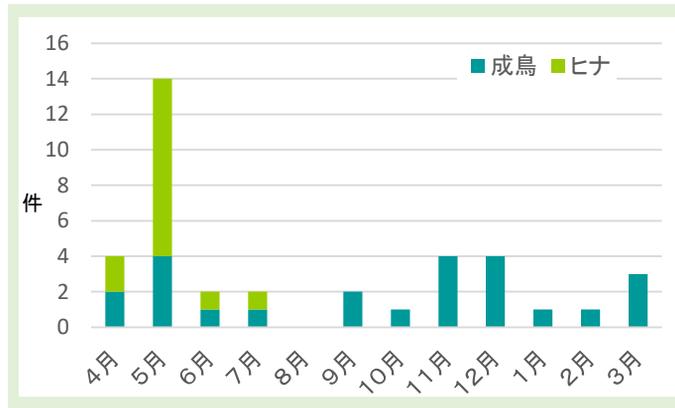


図4 月別受け入れ件数

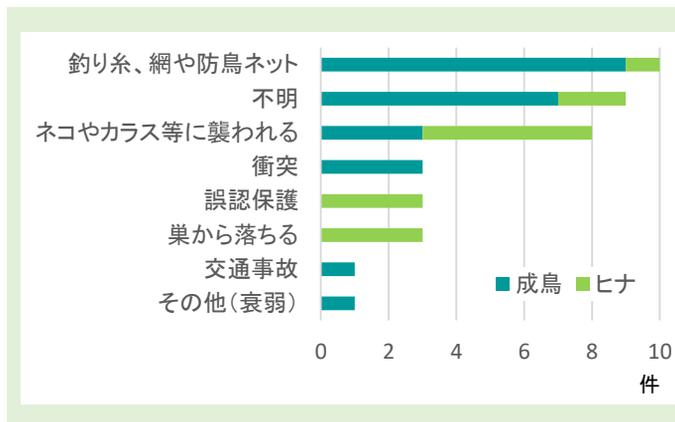


図5 救護原因

# フクロウの救護件数が多い防鳥ネットの事例から

## 防鳥ネットとは

主にスズメやヒヨドリなど農作物を食べてしまう動物から農地への侵入を防ぐための網のことをいいます。網目の大きさや色など多様な種類があり、大切な作物を守るためには効果的な方法ですが、野鳥がケガをしたり命を落としたりすることもあります。特に猛禽類は、農作物を食べることはありませんが、そこにやってくる野鳥やネズミを狙い、夢中で追いかけているうちに今回のように傷ついてしまうこともあると考えられます。

## 受け入れ時の様子

受付No.190050は、2019年5月17日に大磯町内のキュウリ畑で防鳥ネットに絡まったところを保護されました。



左翼から何か白い糸がみえます

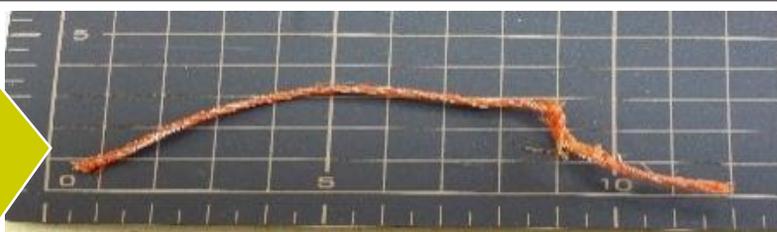
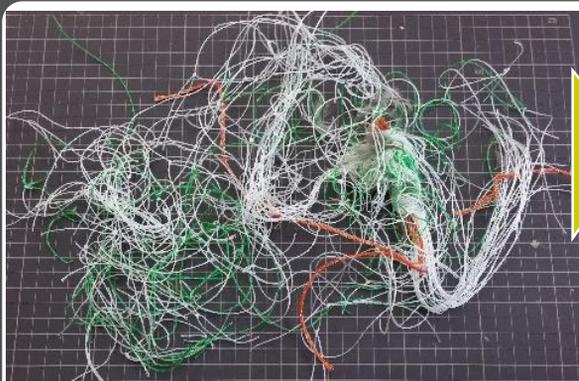


身体中に大量のネットが絡まった状態



少しずつ慎重にはずします

## どんな防鳥ネットかな？



防鳥ネットの色は、白、緑、オレンジ色でした。オレンジ色には電熱線が巻かれていたのですが、フクロウが絡まった時は電気を忘れられていたそうです。もし電気が流れていたら……考えたくないですね。幸い大きなケガもなかったため、2019年5月23日に放野することができました。

## 他にも防鳥ネットに絡んでしまった猛禽類たち

フクロウ以外の猛禽類やスズメやムクドリなどの野鳥も網や防鳥ネットに絡んでしまうことがあります。



白い網が胸元から出ている  
チョウゲンボウ



左翼の脇に電熱線のないオレンジ色の  
ネットが絡んだオオコノハズク

この事例を知って、大切な作物を守りながら、野生動物も守れる工夫が何かできないか考えるきっかけになれば嬉しいです。

